

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース／梅津 正美

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## Ⅰ. 学長の定める重点目標

## Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

## 1. 目標・計画

- ①自ら開発した授業実践力の内容をとらえるルーブリック(「授業実践力評価スタンダード」)を活用し、それにもとづく作業課題と評価基準を設定し、目標－授業－評価の一体化した学生に教育実践力が体系的に身に付くような授業内容の編成を考え実践する。
- ②教育実践力の育成に結びつく具体的な作業課題にもとづいて、講義・演習・模擬授業実践・討論等の方法により授業を展開していく。また、教科専門・教科教育・附属及び公・私立学校教員の協働による授業を展開する。
- ③明確な到達目標をかけた学期末試験を実施し、それに演習課題の達成度や出席状況を加味した適正な成績評価を実現する。

## 2. 点検・評価

- ・後期学部授業コア科目「初等中等教科教育実践Ⅱ」において、「授業力評価スタンダード」を活用し、それにもとづく作業課題と評価基準を設定し、目標・授業・評価を一体化した教育実践を行った。
- ・後期学部授業「初等中等教科教育実践Ⅱ」「中等社会科教育論」において、教科専門・教科教育・附属及び公立学校教員の協働による授業を展開した。
- ・前期学部授業「初等社会」(選択必修:受講学生131名)において、評価規準を明示し学期末試験を実施し、それに演習課題の達成度や出席状況を加味した適正な成績評価を実施した。本授業に対する学生授業評価平均点は、4.3であった。
- ・教育支援アドバイザーとして、徳島県・兵庫県淡路島の小・中学校授業研究会や教員研修会を支援した(23年度末までに8回の講演を行った)。
- ・静岡県総合教育センタープロジェクト研究「授業づくり規準を活用した授業力向上研修における指導力向上」の研究指導者に任命され、研究内容に関する講演・助言を行った。
- ・徳島県・島根県・兵庫県・京都市の教育センターあるいは教科研究会主催の社会科授業力向上研修で講師を務めた(23年度末までに10回の講演を行った)。
- ・附属中学校授業研究大会における社会科担当の指導助言者を務めた(平成23年6月3日)。
- ・附属小学校平成23年度授業研究大会の社会科担当の指導助言者を務めた(平成24年2月11日)。
- ・日本教育大学協会教育政策特別委員会委員を務めた。
- ・平成24年版中学校歴史的分野教科書編集委員を務めている。

## Ⅱ. 分野別

## Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

## 1. 目標・計画

- ・教育実践力育成の到達目標を明確にした授業の構成と実践に努める。
- ・卒業論文・修士論文・博士論文の指導に関して、学生の興味・関心を生かしながら、質の高い論文を完成できるようきめ細かい指導・支援を行う。
- ・社会系コース配属の学生を中心に、留学生が本学で充実した研究生活を送ることができるよう、支援する。
- ・教員採用試験を中心に、学部生・院生の就職活動を積極的に支援する。

## 2. 点検・評価

- ・学士課程3名、修士課程9名、博士課程2名(副査)の論文指導を行った。そして、学士課程1名、修士課程4名が論文を完成させ、卒業した。
- ・社会系コース所属学生の教員採用試験における第二次試験対策(模擬授業)講座を、伊藤直之准教授、井上奈穂講師と協力して実施した(平成23年8月5日)
- ・担当するすべての授業において、学生に到達目標と評価規準を明示して実践した。

## II-2. 研究

### 1. 目標・計画

- ・連合大学院基準に準拠した学術論文を著す。
- ・全国学会で研究発表を行う。
- ・国際学会での研究発表の成果を論文にまとめ発表する。
- ・教育実践力の育成をめざした教師教育プロジェクト研究の成果を上げ、論文を著す。

## 2. 点検・評価

- ・論文「教科授業力を高める自己省察型教員研修プログラムの開発ー「授業力評価スタンダード」を活用した3年経験者研修の実践例ー」(英文、単著)が『第4回日中教師教育学術研究集会プロシーディングス』に掲載された(連合基準A論文)。
- ・論文「中学生の社会認識の発達に関する調査的研究(Ⅱ)ー思考力・判断力の関係性に焦点をあててー」(共著)が『社会認識教育学研究』に審査の上掲載された(連合基準B論文)。
- ・論文「教科授業力の育成をめざす自己省察型教員研修プログラムの開発ー「授業力評価スタンダード」を活用した社会科教育法の実践例ー」(単著)が『日本社会科教育学会平成23年度春季研究会シンポジウム研究報告』に掲載された(連合基準B論文)。
- ・日本社会科教育学会2011年度春季研究大会で招待シンポジストとして発表した(2011年5月14日、桜美林大学)。
- ・日本社会科教育学会第61回全国研究大会で発表した(共同発表:2011年10月23日、北海道教育大学札幌校)。
- ・『教科専門と教科教育を架橋する教育研究領域に関する調査研究』(上越教育大学:平成22-23年度文部科学省先導的  
大学改革推進事業研究成果報告書)を分担研究者として刊行した。
- ・2件の科学研究費受領研究に参加し研究を推進した。
- ・連合大学院共同研究プロジェクトに研究主題「社会科授業研究における教育実践学的研究方法論の構築と展開」が採択され、平成24年度より3カ年チームリーダーとして研究を推進する。

## II-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- ・所属委員会やワーキング会議に出席し、職務を確実に遂行していく。
- ・大学改革に関する提言を積極的に行う。
- ・連合大学院(博士課程)の運営に役割を果たす。

## 2. 点検・評価

- 大学運営に係る以下の職務を遂行し、大学改革のための役割を果たした。
- ・平成23年度学部教務委員
  - ・平成23年度学生による授業評価検討専門部会主査
  - ・平成23年度教職実践演習実施専門部会委員
  - ・ディプロマ・ポリシー策定専門部会委員
  - ・「平成22年度事業年度に係る業務の実績に関する報告書」副総括責任者
  - ・第5回中日教師教育学術研究集会準備委員会委員長
  - ・兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科社会系教育連合講座副議長

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- ・附属小・中学校の実習及び研究会に積極的に参加・支援する。
- ・小・中・高の学校教員との共同研究を積極的に推進していく。
- ・教育支援講師, 10年次研修講座, 県及び郡市の教科教育研究会等における助言・講演などを通じて, 地域の教育関係機関との連携を深めていく。
- ・外国の研究者との共同研究を積極的に推進していく。
- ・国際学会での研究発表や学会誌への投稿にチャレンジする。

### 2. 点検・評価

- ・教育支援アドバイザーとして, 徳島県・兵庫県淡路島の小・中学校授業研究会や教員研修会を支援した(23年度末までに8回の講演を行った)。
- ・静岡県総合教育センタープロジェクト研究「授業づくり規準を活用した授業力向上研修における指導力向上」の研究指導者に任命され, 研究内容に関する講演・助言を行った。
- ・徳島県・島根県・兵庫県・京都市の教育センターあるいは教科研究会主催の社会科授業力向上研修で講師を務めた(23年度末までに10回の講演を行った)。
- ・附属中学校授業研究大会における社会科担当の指導助言者を務めた(平成23年6月3日)。
- ・附属小学校平成23年度授業研究大会の社会科担当の指導助言者を務めた(平成24年2月11日)。
- ・日本教育大学協会教育政策特別委員会委員を務めた。
- ・第5回中日教師教育学術研究集会実行委員会委員長を務めている。
- ・論文「教科授業力を高める自己省察型教員研修プログラムの開発ー「授業力評価スタンダード」を活用した3年経験者研修の実践例ー」(英文, 単著)が『第4回日中教師教育学術研究集会プロシーディングス』に掲載された(連合基準A論文)。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)